

刊夕日一廿月五 常警日新新聞

定價 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
廣告刊五折 電話 六三三〇  
發行所 常警日新新聞社  
印刷所 常警日新新聞社

雑話

谷口安比呂

人の運命ほど、果敢ないものは有るまいと思ふ。私が小學校を出る時は、同級五十五名が卒業式に臨み、それから各自教室に戻り、受持訓導より最後の御講話を聞いたのですが、其の時は泣いて別れを惜しむあり、前途の希望に喜ぶあり、丸で各々がエンサイクロペディアの様な頭で校門を出たのでした。それから十八年顧みると全然變つて居ます。

受持教師は死んで了ひました。同窓の中で貧乏え土蔵破りをし、警察へ引かれたものも有ります。失戀の結果電車に飛び込んで死にきれず重傷を負つたものも有ります。或は肺病で、借しい才を抱きつゝ、あの世に旅立つた友も居ると言ふ譯で無事残つて居るのが幾らか分らぬ位です。而し未だズバ抜けて出世した友が一人も無い所を見ると、世の中そのものが骨折れるのぢや無いでせうか。十三歳ごろ學校を出る時は、個人として身体學力とも、其んなに違ひある筈ありません。然し其れが活社會へ出れば甚だしい差違が生ずるらしいです。

環境、地位、財力、人品、其れは同窓間に愈々隔を生せしめ、仲の良かった友達も、いつしか道で隔つても知らぬ振りし勝ちなものでせうから、一寸さびしい感に打たれます。

乞食は單に貧乏故のみでなく、怠惰癖もある様に思ひます。ルンペンも乞食の親類筋でせうが立派な体を持ち乍ら金を貰ひに来る人が有ります。時に四五人も續げざま来られると、嫌になつちやいます。

町によると、乞食狩りして追ッ拂ふ所もあるのだ、人間のカスとは言へ、ミジメだと思ひます。「乞食の方が金持だ」ある労働者が立話して居ますので、ふと私の考へも違ひました。時々新聞に「五百圓持參の乞食」等と出てる所を見ると、中にはタンマリ持つてる者が數あるか知れませんが、あれで繩張りがある相で、乞食の親方は普通人の着物を着澄まして町へ女買ひに来る相ですから、まじざら見下げたものでもなく、見上げものでも有りませんが……ヨタモンなら「凄いなア」と言ふ所せう。

世の中には、金以上貴いものが有ります。清貧、信

用、名譽などが然りてせう。然し現實のつらさは、金がないと動きが取れぬのです。品物を買ふにも、現金買ひは掛買より五分かた安く、賣主も亦歡迎します。「借金すると頭が上らぬ」とよく聞きますが、先づ貸主に對し偉張れぬのは確かです。「はい来た」と、百圓札の十枚も投出すは成金ですが小金とて離れのいゝ人は好かれます。世には理想の主義の、偉さうなこと言ふ人がありますが、其の裏を覗くと、金が鼻につくので嫌になります。

さすれば金が無ければ「其の存在さへ否定される」唯物主義の恐ろしさは嚴存してるのですから、依つて人間は、馬車ウマの如く働かざるを得ないのでせうか。

【をばり】

店主が	店員
を運	れて行
か	れる
正	食
正	茶
正	酒
正	場

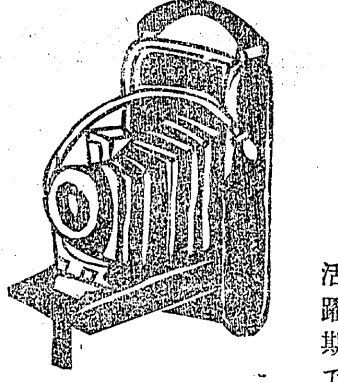
平・田町  
サロンの  
電話三五二番

**外科 X 光線科**  
性病科  
外科科

平町 田町  
**安齊外科醫院**  
電話 四七五番

入院隨意

**初夏**  
カメラフアンの  
活躍期です  
MS カメラ



平 驛 前  
いづみや玩具店  
カメラ部

ゼアラの自轉車 代理店  
宮田自轉車

平局御用 **エビスヤ自轉自店**  
平南町 電話六六四番

◇ 宮田自轉車九半度郵便局納め  
五千二百輛

小店員入用 貳名(十五、四才)

感じの良いい!  
客に親切な……

藥種賣藥、工業藥品  
衛生材料、各種染料  
化粧品、其他

**阿部藥舖**  
平・田町(松月堂向)

婦人科  
外科  
藥局

長 木村寅次郎  
醫學博士 内木宗八  
醫士 立番彌一

平町新川町十九  
入院隨意  
病室完備

**木村病院**  
電話一六四番

**34年型新車購入**

快ろよい微風が頬をかすめて  
吹く……野邊に、海邊に  
アタタのリーベとの遠乗りは  
散策に御私用に是非御愛  
乗下さい。  
セリザワのニュー・カーを!

平・三 **芹澤タクシー**  
電 395

●評判で香りのよい  
**電熱ほうじ茶發賣**

一號 一斤六〇 四半斤一五〇  
二號 一斤四〇 四半斤一〇〇

大黒はしらは家の王  
お勝 手道具は世帯王  
大勝園で買った茶は  
茶間のの玉よ客間王  
父様母様おすきの茶  
客のほめる茶 喜ぶ茶

平 三 **大勝園**  
電 三九六番

月曜是非

忘れられた一存在

過日本紙が警城訓盲院が郡下各町村に對して教育費補助を要求するの意圖あるを報ずるや、地方有識者間にセンセーションを起し、今更の如くに同校現在の經營難を認識されるに至つた一體同校は明治三十九年日露戦捷記念事業として石城郡教育會が主となり、無明の人々に教育と職を授けるために設立されたもので創立の當初こそ、故中村立躬氏らが基本金募集のため幻燈會等を開催し、草鞋履きで山間僻地を奔走するなどの文字通りの不眠不休の涙ぐましい活躍があり、地方篤志家、素封家から相當の寄附金があつて順調なる成長發展の途を辿つて來たのであつたが、大正十五年現在の新校舍に移轉するや同校の基礎全く確立されたりとして世人の同校に對する温情の念薄らぎ、今やその存在は平町の片隅に忘れかけられた、加ふるに同校の基本金三萬圓の貯金が過ぎし日の未曾有の不況時代に警銀、百七兩銀行の休業モラトリアムの災厄に遭遇して同校の基礎は動搖し、經營上の危機を招來して現在の苦境に當面したのである。

少せず、否益々増加の一途を示しつつある折柄、愈々盲人教育の重要性を痛感され、同教育の完成の急を叫ばれて來たのである。

警城訓盲院はその設備、規模、生徒數に於て縣下は勿論東北六縣に冠たるものとして認めらるゝ盲學校で之を維持生長させるのが本郡としての義務であり、責でないならばならない。同校は現在の難局を打開せんとして町村に教育費の補助を要求したもので謂ふまでもなく、町村は義務教育令に基き自村學童のために年々莫大な教育費を計上し、その負擔をそれら、町村民に割當てゝあるものであるが、その愛兒が不幸にして盲人である場合(大部分は、中農以下の階級に多い)村税の名の下に教育費の幾分宛を納めながらその盲兒はその町村小學校より教育の恩恵を蒙らず、反つて他地盲學校に入學させる始末であつて、納税に苦痛を感ずる中農以下の階級の父子に對して之は大いに不公平であり、理論上からも矛盾したもの云はざるを得ない「納税の義務を奉じてゐる村民の盲兒のためにその村の學童一人當りの教育費を補助せよ」といふ警城訓盲院の血の絶叫は寔に至當であり、是非の論議の餘地なきものといふも過言でなく、吾人は宜しく各町村に於て同院の要求に應ずる英斷を期待切望するものである。

地下採掘協議

廿四日町會召集

最後答申案決定

平町では来る廿四日午後一時より役場會議室に町會を召集左記の如き盛り澤山の案件を附議するが就中炭鑛から出願の地下採掘問題等重要問題もあるので注目されてゐる

- 一、土木費指定寄附に關する件
一、縣工事請負申請に關する件
一、小學校建設費起債の件
一、道路改築費起債の件
一、小學校基本金一時運用の件

海軍記念日に

非常時日本を強調

平町各學校の催し

平町各中等學校及び各小學校では皇國の興廢を一舉に決し敵艦隊を日本海に撃沈して皇軍の武威を廣く海外に發揚した日本海大海戦の記念日来る二十七日に接追したので非常時に於ける此の月を意義あらしめるべく過般來準備中であつたが此の程講演後夫々左の如き催し物を行ふ事に決定した

- 面往復一萬米マラソン
△警女 講演會
△佐賢 校内辯論大會
△警青 城山一周マラソン
△第一 月次運動會
△第二 校外遠足
△第二 體操會

田植協定

飯野の實行組合
飯野村農事實行組合では去る十九日午後一時より同村小學校に於いて總會を開き

唯野平稅務署長、佐藤縣稅務出張所長等出席のもとに優良納稅組合として五郎内上組合外廿四組合を表彰し終つて組合員の田植開始期日及び人夫賃銀に就いて協議せる結果田植は來月十七日開始し賃金は男女共辨當持九十錢他は七十錢と協定した

佐波古氏の頌德碑

温泉社境内に除幕

湯本村温泉神社々司佐波古直元氏は十九才の折同社神官を就職以來八十才の今日まで勤績教導職として努力し其の德を慕つた氏子が豫てより同社境内に氏の頌德碑を建立中であつたが過般竣功したので去る十九日盛大な除幕式を行ひ石川湯本町長、野崎玉川村長等の祝辭、餘興として湯本藥者の手踊等があり非常な盛會であつた

吉田安雄氏

平紺屋町吉田眼科病院長吉田安雄氏は過般來病氣療養中の處藥石効無く去る十九日午後九時十分死去したが二十二日午後一時より二時迄に自宅に於て神式に依り告別式を執行すると

日光見學旅行

平各小學校六年生は例年の如く來る六月八日頃校長並に各組主任に引率され日光へ一泊二日間の修學旅行を行ふ事になつたが今年も貧困兒童に對しては保護者會より旅費其他支給される筈である

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

難

内科一般

醫學博士 難波陸

平町大町新川端 電話五〇二

醫

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木正男

平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

# 吳服物の行商や

## 折詰の調理

### 農村更生は先ず婦人から

#### 渡邊婦人會の活動

渡邊村婦人會では經濟更生指定村として婦人會の自力自營を圖り昨年度より會員二百五十名が村民の野良仕事着を一手に引受け五分の手數料で製作し賣捌いたので昨年は三百反、本年は二百反を配給したが同會では更に今春より會長永山ジン方に調理部を設け村民が集

### 罰金の分納

#### 断じて叶はぬ

平検事局いよいよ最後の整理を断行

平検事局では過般來罰金及び科料の未納者に對し再三督促状を發し之れが整理を行つてゐるが不景氣の故かそれとも共當該者の横着からか納入する者がなく或は僅かづつ分納等で一尙整理がつかないため止むを得ず愈々最後の逮捕状を發し換刑處分に付する事になつたが現在未納額は三百餘名、六千餘圓で今後は絶対に分納を許さない方針をとると

### 田島義捐金

平町けふ發送

平町では豫てより各區係員と協力取纏め中であつた田島町の義捐金は昨日を以つて締切つたが總額百六十圓に達したので本廿一日田島町長宛に發送した

### 虐弱兒童

#### 體力増進

平第二小學校では過般全校兒童千五百十八名の體格検査を行つた處呼吸器疾患等は一名もなかつたが體重不足、虛弱兒童が三十三名の多數に上つたので同校體育部主催の下に體力増進の方法として今後毎月二回宛徹行程を行ふ事になつたが各學年の體重不足虛弱兒童數は左の如くである

### 理想の中の作港

九年度豫算八萬圓

#### 上京して實現運動

江名町字仲ノ作漁港は九年度に於いて工費七萬八千餘圓の縣工事として港内船溜の岩盤掘削浚渫工事を行ふべく小林平土木監督所長及び縣山口技手は去る十九日上京主務省に陳情したが右工事が完成すると暴風雨の際五十噸級漁船百隻が避難し得る理想的漁港となる豫

明日の天気  
西の風晴曇半す  
今夜も明日も南

今晚の部  
後六、〇〇(子供の時間)  
お話「簡單な寫眞機」二  
柚木卯馬  
後六、二五 基礎佛語講座  
(十三) 丸山順太郎  
後七、三〇 趣味講演「忠  
四年三 五年八 六年六

### 落盤慘死

後山婦は重傷

内郷村大字白水字澤平廿三居住塚田トク(五)は去る十九日午前七時半頃浪花炭礦内で後山作業中落盤の爲め右足腰部に瀕死の重傷を負つたが昨日には湯本町字日渡一〇入山炭礦坑夫長居佐藤富(六)が同日午後二時半頃同礦第四坑内で柁入作業中同く落盤に見舞はれて即死した

### 磐女學年對抗競技

優勝の桂冠二年へ

既報磐女各學年對抗陸上競技大會は去る十九日午後一時より新緑滴る櫻ヶ岳グラウンドに於て開催、總得點一年三十點、二年三十六點、三年二十六點、四年二十九點で二年が優勝したが各種目に於ける優勝者は左の如くである

### 受益者負擔

廿三日區長會

既報平町本町通りの舗装工事は愈々近く着手する事となつたので當局では来る廿三日午後二時より役場會議室に關係區長を招集工事受益者の負擔金割當其の他に付いて協議する

### 土木委員會

廿三日に召集

平町では来る廿三日午後一時より會議室に土木委員會を開き左記事項を協議する一、公園地使用繼續願の

明日の部  
前六、三〇 基礎佛語講座(十九) 橋本忠夫  
前七、二〇 聖典講義(八) 玉置賴晃  
前九、一〇 料理献立「プロイロドチキン」佐藤合百子  
前一〇、三〇 母の講座「乳幼兒の体の育て方」醫學博士 太田正之  
後〇、〇五 琵琶橋中佐一千田旭澄  
後二、〇〇 家座婦人講座

### 平職界紹介所報告

一、縣土木費指定寄附の件  
回人を求める方  
△外交員 二十以上 高卒 給料歩合  
△湯屋釜炊き 三、四十才 月七、八圓  
△鍼力職 四十位 尋卒 給料面談  
△女中 四十位 尋卒 月五、六圓  
回職を求める方  
△土工夫 四十四才 尋二 給料面談  
△魚屋店員 二十九才 尋卒 給料面談  
△給仕 十九才 高一修 給料面談  
△機械工 二十二才 高卒 給料面談

### 耳鼻咽喉科専門

### 大和田醫院

平町南町 電一七〇番

# 新立頭

(警察上段及上段)

田邊南龍(作)  
山本英春(書)

三七

男の魂を預けて(二)  
「此人は私の出入り先の若旦那お父さんより呼んでこい」と云ふ命令を受けて此處へ出ました始末、不調法は私が成り代つて幾重にも御詫をいたしますから親持なり主持なり何卒御勘辨を願ひます」

「占めた……」  
と思ふから、  
「夫れぢやア何か若旦那との喧嘩を横合から買つて來なすつたんだな」  
「イエ買うと云ふ次第ではございませぬ、此の人に成代つて御詫をいたすのでございませぬから宜しく何卒」  
「兎に角此處ぢやア話が出来ねえ土手へ往つて話をしませう」  
「畏まりました」  
五人の者は梯子段を降りて行く、跡へ残つて長兵衛淺見屋夫婦を呼んで、  
「何卒心配しない様に花魁を妓樓へ早く歸して呉れ」  
「へ……」

と直に三浦屋の家へ高窓を歸して  
「扱て若旦那全體何う云ふ譯」  
「斯う、斯う云ふ理由」  
「宜しい元々貴郎に彼奴等が恨みのある次第では……」

私を引出す計略であるによつて御返し申しますから、決して御心配なさるな」と言ひ置いて土手へ參つて見ると、其の頃の編笠茶屋悪い奴が來たから爺さん婆さんは逃げて仕舞つて誰



「若旦那は歸つたつて御主さい残つてりやア好い」  
「それに就いて此郎は歸んなさると云つて、途中で道草でも喰つて居る様な事があつては何もありませんか、田町に越前屋重助と云ふ米屋がある、其處まで私が送つて往つて米搗を五六人付けて屋敷まで送、届けたい存じますが何卒田町まで參る間の御暇を頂き度うございませぬ」  
「イヤ長兵衛さん、然んな事を云つて逃げなされる積り

も居ない茶屋へ五人は腰を懸けて此處へ來て  
「さて親方さん外ではありませぬが今段々聞いて見ると殿様の御用先ださうでございませぬから若旦那は屋敷へ御歸しなすつて下さいやし」  
だらう、逃げる者を無理に引留めて喧嘩アしても詰らねへ、逃げるなら遠慮なしに逃げなさい」  
「イエ決して逃げると云ふ次第ではございませぬ」  
「然らば逃げないと云ふ證據を置いて下さいなさい」

「畏まりました、これは狗威しの雑刀ではございませぬが、父より譲られた物でございませぬから此刀を置いて行きます、男の魂を人様に預けつ放しにして逃げる譯には行きませぬ」  
「ヨシ確に預かつた、遅くなつたら花川戸の家へ取り來なされる様」  
「そんなに手間は取りやしません、直ぐに戻つて參ります」  
と直ぐに若旦那庄次郎を連れて田町の越前屋重助方へ來て、米搗五六人を頼んで小石川御殿下の屋敷へ戻して長兵衛取つて返して來ました。

半七は  
「親分あんな事をいやアがつかつて長兵衛は屹度屋敷者を迎ひに往つたに違ひない、一部屋も二部屋も振つて來られちやア大變、此方も少と人数を拵へて來ませうか。」

内科 小兒科 花柳病科  
**藤 沼 醫院**  
平町 紺屋町 電話五〇七番

看護婦急派  
の求めに應じます  
平町南町  
**平看護婦會**  
電話三〇七

商品日掛販賣の權威  
平町南町一九  
**一徳合資會社平支店**  
出張所 四倉町本町九九  
湯本町三國三二四

**有給外務員招聘**

▽日掛は金十錢以上金五十錢迄あります  
▽六ヶ月以上御掛けに成れば一ヶ月前分前貸致します  
▽一ヶ年御掛けに成れば年五分に相當する配當があります

養父安雄儀永々病氣之處療養不相叶本日午後九時十分死去致シ候ニ付此段御通知申上候  
追而來ル二十一日午後一時ヨリ二時迄ノ間自宅ニ於テ神式ニテ告別式相營ミ可申候  
昭和九年五月十九日  
福島縣平町紺屋町  
嗣子 吉田久雄  
親戚總代 佐藤權  
友人總代 酒井國三郎

漆器の御用は皆様の丸共へ御用命下さい……  
卸賣特に御務め勉強致します。  
景品賞品類  
進物贈答品  
恩賜賞品  
記念表彰品  
各國産漆器  
**共榮漆器店**  
平町三丁目北裏通  
店員募集  
本年尋卒 仕着 小使月三圓  
同高小卒 仕着 小使月五圓  
外交員十八九才より三十才迄

**中村齒科醫院**  
平町 鍛冶町七

旭硝子株式會社製品  
赤菱印  
**板ガラス**  
硝子 食器  
硝子 食器  
其他 各種  
**松崎硝子製作所**  
平町新川町(電話一四二番)  
◇支工場 仙臺市榮町(電五九七番)